

## 市民ワークショップの実施結果について

一ノ関駅東口工場跡地の利活用に関する市民意向を把握し、土地活用計画の参考にするため、以下のとおり市民ワークショップを実施した。

### 1 開催日時

第1回：6月23日(金)午後6時30分～8時30分

第2回：6月30日(金)午後6時30分～8時30分

第3回：7月7日(金)午後6時30分～8時30分

### 2 開催場所

なのはなプラザ2F にぎわい創造センター

### 3 参加者

(1) 公募（一般枠）15人（当初予定6人）

(2) 公募（学生枠）11人（当初予定12人）

(3) 団体推薦 19人（当初予定19人）

合計 45人（当初予定37人）

#### ■ 団体推薦の分野・推薦依頼団体・参加者数（単位：人）

No.	分野	推薦依頼団体	参加者数
1	商工業	一関商工会議所	2
2	農業	いわて平泉農業協同組合	2
3	観光	一関市観光協会	2
4	福祉・子育て	一関市社会福祉協議会	3
5	文化・芸術	一関文化会議所	2
6	スポーツ	一関市体育協会	2
7	若者	一関青年会議所	2
8	近隣住民	隣接行政区・一関銀座会	4

#### ■ 性別・年齢別参加者数（単位：人）

	10代(学)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	9	0	8	6	2	3	3	31
女性	2	1	2	4	1	4	0	14
計	11	1	10	10	3	7	3	45

### 4 実施内容

#### 《第1回》

- ・ エリア周辺の概況や利活用構想などの基礎情報を共有
- ・ 当該跡地の活用について自由に意見を出し合うグループワークを実施

#### 《第2回》

- ・ 第1回の内容から6つのテーマを設定
- ・ テーマごとの機能に沿って、具体的な活用方法について議論
- ・ グループメンバーを変えながら、3回のグループワークを実施

[テーマ] (1) 教育機能

(2) 産業振興機能

(3) 観光・飲食・物販機能

(4) 文化・スポーツ機能

(5) 公園機能

(6) 行政サービス機能

#### 《第3回》

- ・ 第2回での議論を基に、活用方法について深堀りを行い、参加者の意見として整理
- ・ グループメンバーを変えながら、2回のグループワークを実施

### 5 ワークショップの成果

- (1) 今後実施予定である民間事業者に対する意向調査（ヒアリング）における資料とする。
- (2) 令和5年度から令和6年度にかけて取り組む予定である、公的施設整備の基本計画及び土地活用計画の検討における資料とする。

## 6 テーマごとに出された意見のまとめ

### (1) 教育機能

「人口流出の抑制」や「定住の促進」という視点と、「市民への学びの提供」を両立した、誰もが学べる場所としての機能。

**【キーワード】** ありそうでなかった、誰もが学べる教育機能

#### ① 外部から常に人を呼び込める機能（仕組み）

- ・ 4年制大学やサテライトキャンパス、オンライン制の学校など“学ぶ場”があることで学生の目的地となる。
- ・ 定住にこだわらなくても、若い世代が入れ替わりながら居続ける仕組みができることで、雇用につながる企業や店舗、施設などが一関市に進出してくる。

#### ② 年齢の垣根のない教育機能

- ・ 職人や工房が集まり、実用的な学びや伝統工芸、デザイン、アートなどに見て、触れて、実際の学びにつながる機能があるとよい。
- ・ 興味のある市民や、本格的に学びたい学生、職務に活かしたい社会人（リスキニング）などが集まり、一関市からプロが育成される。

#### ③ 産学官連携機能

- ・ 高等教育機関などとの産学官連携機能があることにより、企業誘致や産業振興の活性化などが期待できる。

#### ■ その他の意見

- ・ 「高校生などが勉強する場・交流する場」は不足しておらず、あらためて整備する必要はない。
- ・ どのような教育機関であれ、「いかに地域と連携できるか」が大事ではないか。

### (2) 産業振興機能

企業のオフィスだけのイメージではなく、研究やスタートアップ支援を含めて様々な機能が複合化した雇用創出機能。

**【キーワード】** 人と情報が集積した、複合機能による雇用創出の場

#### ① 複合型雇用創出機能

- ・ 複数企業がオフィスとして利用することで企業同士のセッションの場になり、新たな商品開発などの相乗効果が生まれる。
- ・ 病院機能や託児機能があることで、子育て世代も安心して働けるようになり、医療や託児などの雇用も生まれる。
- ・ 病院は、産科や眼科など市内で手薄になっている部分がカバーされることで市民の暮らしがよりよくなる。
- ・ 食堂があることで、働く人の満足度向上や新たな雇用にもつながる。

#### ② 産業振興センターとオペレーションセンター機能

- ・ 敷地内はオートモビリティが走行する仕組みとし、脱炭素などのクリーンエネルギーを先導する場所にしてはどうか。
- ・ 人と最新情報（技術）、仕事が集積し、市全体の発展につながる。
- ・ 市の関係部署や専門企業が産業振興センター機能（オペレーションセンター機能含む）を担えるとよい。

#### ③ 進路相談やスタートアップ機能

- ・ 子どもから大人まで様々な職業体験ができる場所があることで、職業選択の幅を広げたり、職業観を醸成したりすることができる。
- ・ ビジネスサポートセンターを配置することで、市内の企業情報が得られる。

#### ■ その他の意見

- ・ 企業誘致は撤退のダメージも大きいいため、そのダメージを最小限にするための工夫も考えないといけない。
- ・ テレワークを導入する企業が増えてきているため、ビジネス要素をこの場所に求めないという視点もありか。

### (3) 観光・飲食・物販機能

市内観光地や世界遺産平泉などの情報拠点を配置した、知る・試すキッカケを創出する機能。

#### 【キーワード】情報と交流のハブ機能

#### ① 観光情報を得られる場所、商業施設機能

- ・ 一ノ関駅の近くに情報センターを配置することで、観光情報・歴史文化情報を得ることができる。
- ・ 飲食機能や地元特産品などの物販機能、体験コーナーがあることで公共交通機関の待ち時間を有効活用することができる。
- ・ 駅から離れたエリアには、東北唯一となる商業施設を誘致することで、市民生活の満足度向上のほか働く場所の創出にもつながる。
- ・ 商業施設では、食品などで他のスーパーと差別化（高級志向とするなど）を図っても、結局は元のスーパーに戻る利用者が多いと思われるため、ソフトの充実が人を楽しませる要素となる。

#### ■ その他の意見

- ・ 一関市はハブ機能のまちであり、観光要素は西口のみで担えるのではないか。
- ・ この場所は人を集める空間になり得るので、一ノ関駅からの動線で一関市の観光地に広がる機能があるとよいのではないか。
- ・ 飲食や物販について、公共交通機関利用者の視点では、駅の近くに一関市ならではのものがあるとよいが、市民生活を考えるとアンテナショップだけでは立ち寄り場所にならないため、アンテナショップ機能と商業施設の両方を持った駅ビルのような商業機能がよい。

### (4) 文化・スポーツ機能

文化やスポーツに触れることで、新たな発見や気づきを得たり、新たなチャレンジを促進することにつながる機能。

#### 【キーワード】非日常やプロフェッショナルに触れる場

#### ① 非日常に触れる文化機能

- ・ 一ノ関駅の近くに美術館などの文化施設を配置することで、駅利用者にとって、滞在できる、目に留まるという観点が満足度を高める理由の一つとなる。
- ・ 住民にとっても癒しになり、医療・福祉・教育にも結び付くと思う。
- ・ 文化センターとは異なる仕様のコンサートホール機能があることで、音楽イベントやファッションイベントなどの文化活動も積極的に展開されるようになり、市内外からの交流人口の拡大につながる。
- ・ 文化センターは、固定席であることなど事業によっては使いにくさがあるため、柔軟な対応が可能な施設にした方がよい。

#### ② プロスポーツにも触れられるスポーツ機能

- ・ 一関市では、プロ選手が試合をする姿を見る機会はあまりないため、プロチームも使える機能（トレーニング、リハビリ、競技、食事など一貫したもの）があることで、市民のワクワク感を創出し、交流人口の拡大にもつながる。
- ・ 子どもたちの体験の場を求める声は多いが、人生の扉を開けるきっかけは、本物＝プロを見ることも大事な要素である。
- ・ 競技種目を絞り込むことは難しいが、例として一関市出身の岩淵麗楽選手のイメージで、夏場のトレーニングもできる屋内スノーボードパークなども考えられる。

#### ■ その他の意見

- ・ 木の美術館、食の博物館、農業の博物館などアイデアは様々あるが、駅＋美術館の組み合わせはどこにもなく画期的である。
- ・ スポーツに関しては、パブリックビューイングができる場所があるとよい。

## (5) 公園機能

全天候型と野外型が複合し、イベントや日常的な遊びのほか避難場所としても活用できる、全年齢に配慮した公園機能。

### 【キーワード】 避難場所機能も兼ね備えたイベント対応型広場

#### ① 全天候型と野外型の複合機能

- ・ 雨天時でもイベントが開催でき、日常的にも子どもが走り回れるような、屋根がかけられた全天候型の広場があるとよい。
- ・ 避難場所の機能としては、災害対策本部などに活用ができるなど、屋根があることで活用の幅が広がる。
- ・ そのほかに野外型の広場があれば、軽スポーツやイベント、晴れの日子どもが走り回る場所として活用できる。
- ・ 経年劣化や事故の原因にもなるので、遊具は置かない方がよい。
- ・ 芝生が敷かれ、スプリンクラーなどで水遊びもできるとなおよい。

#### ② 高齢者・障がい者・ベビーカー用に、駐車場から段差がない散歩コース

- ・ 誰にでも利用しやすい環境の整備が必要。
- ・ 高齢化に対応するだけでなく、子育て世代にも優しい環境にすることが大事。
- ・ 段差がない事によって、散歩のしやすさや利用者のストレス軽減にもつながる。

#### ③ 樹木や花(花壇)があり、東屋などで休める場所

- ・ 子どもや保護者の休憩する場所として、紫外線や日光を遮る樹木や東屋をつくることで、安心して子供を外で遊ばせられる環境になる。
- ・ 屋根がある遊び場も必要だが、特に子供には屋外での活動も大事である。
- ・ 全天候型と連続した敷地に整備することで、長い時間過ごす事が可能な施設になる。

### ■ その他の意見

- ・ 敷地全体をどのように活用するかで、公園に求める機能は変わると思う。
- ・ 東口周辺エリアには大きな公園がないため、住民目線では、子どもだけで行けるような大きな公園があるとよい。

## (6) 行政サービス機能

高齢者に配慮した対面式窓口や東口周辺エリアの市民活動拠点としての機能。

### 【キーワード】 市民の利便性を図る行政機能

#### ① 市役所窓口機能と市民センター機能

- ・ 東口周辺エリアには行政機能があまりないため、市役所窓口と市民センターが併設されている施設があるとよい。
- ・ 高齢者にとっては、東口周辺エリアから一関市民センターまで歩いて行くには遠いため、市民センター機能があることにより東口周辺エリアの市民活動、地域活動の拠点になる。
- ・ 窓口機能のオンライン化が進められているが、高齢者に対しては各種証明書発行や手続きなど対面式の窓口機能が求められると思う。